

キャラクター名  
足鳥 陽人(あしどり はると)

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー サラマンダー	ワークス	ネゴシエーター	カヴァー	高校生
オプション	エグザイル	年齢	17	性別	男
覚醒	無知	衝動	自傷	初期侵食率	31 %
出自	親の理解	経験	喪失	邂逅	いいひと

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	3	0	0			3	行動値	10
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	10
精神	2	0	0	4		6	戦闘移動	15
社会	1	1	0			2	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	9		交渉	1	
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識: <small>意味不明</small>	1		情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: 裏社会	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
溶ける世界(攻)	RC	6r+9		10		100↓ コスト1
溶ける世界(攻)	RC	6r+9		13		100↑ コスト1
溶ける世界(守)		0		6d+2		100↓ コスト5 1/R
溶ける世界(守)		0		7d+4		100↑ コスト5 1/R

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
奇跡の血	P	N		
夏海朱里	P 親近感	N 悔悟		
ユキ	P 庇護	N 不安		
桜井若歌	P 執着	N 悔悟		
風祭かなめ	P 友情	N 食傷		
桜井彰人	P 憧憬	N 悔悟		
四浦三幸	P 同情	N 不安		

最大財産P: 6    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
崩れずの群れ	1	2	オート	至近	自身	自動		
効果:	カバーリング							
焦熱の弾丸	1	1	メジャー		-	RC		
効果:	Lv+2 射撃							
無機なる四肢	1	1	メジャー		-	RC		
効果:	Lv+4 射撃 ドッジ-1							
紅の刃	1	1	メジャー		-	RC		
効果:	Lv+1 射撃							
鮮血の網	2	2	メジャー		範囲(選択)	RC	Lv/S	
効果:	射撃+範囲 命中で硬直							
コンセ	3	2	メジャー					シンドローム
効果:	C値-Lv							
赤河の支配者	4	2	オート		自身			
効果:	1d+Lv×2軽減							
氷雪の守護	1	3	オート		自身			1/R
効果:	(Lv+1)軽減							
異形の加護	1	4	オート		自身			1/R
効果:	軽減効果に3D追加 暴走時制限開放							
異形の相	★		メジャー					
効果:	表情筋の操作							
アップドラフト	★		メジャー	至近	範囲選択	自動		
効果:	上昇気流で自分と周囲を飛行状態にする							
生命治癒	★		メジャー	至近	単体	自動	非over	
効果:	血を分けることで怪我病気を治癒できる							
無面目	★	3	オート					
効果:	オーヴァードであることを隠す							

中学時代に幼馴染が死んでから少しだけ人に距離を取るようになった。  
表向きには優しく明るい人をベースとする。  
戦闘時は敵対者となるのが確定した人に「最初に死ぬのは俺かお前のどちらかだ」といって一切引かない形スタイル。

子供のころから自分のことを何でもできる魔法使いだと思っていた。なにせわかりやすいものでは風を使って空を飛べる。鬼ごっこでも空を飛んで逃げた。それは自分にしかできないことだけどレネグイトなんてものは知らなかった。自分が特別な存在なんだと信じていた。自分はきっとヒーローなんだと思っていた。もしも悪い大人が俺たちを書そうと近づいてくるならそれらを取り払うのは自分なんだと信じていた。

特別な力などあっても「じゃあね」と別れた幼馴染が交通事故で死んでしまうことすら避けられない現実と直面するまでは。

暫くは自己嫌悪に陥った。学校に行って友達に励まされたときは怒りをぶつけそうになったりもした。夜に散歩する癖がついた時にUGNとFHの戦闘に巻き込まれて力を持っているのは自分だけではないことを知った。「日常を守る」という言葉の響きは現実逃避する口実にはちょうど良かった。その時増えた"力を持った知人"曰く俺はレネグイトが体の外に出にくいらしい。それゆえに他のオーヴァードに見つかりづらかったのだと。もし、俺がそうじゃなかったら、UGNにもう少し早くコンタクトが取れていたならその時にUGNの協力があつたのなら幼馴染は生きていたのだろうか。

人差し指を銃のように構えて指先から血が溢れて建物に溶けてそれが燃えてそんな風邪の日に見る夢のような光景が目の前に広がると見えている全てが同時に目標に突撃するような攻撃を行う。攻撃に対しても溶けて出ている血がそこの無機物ともに攻撃の前に燃えながら衝撃を殺すように彼を守る。

